

高等学校における分かりやすい授業づくりに向けた一考察

ーユニバーサルデザインの視点からー

高校教育研修課	主任指導主事兼課長	坪田 正弘	主任指導主事兼班長	瀬尾 智宏
	主任指導主事	藤後 泰祐	主任指導主事	京極 潤
	主任指導主事	三浦 裕子	主任指導主事	室田 守
	主任指導主事	長尾 貴雄	指導主事	雲田 貴之
	指導主事	小口 洋平	指導主事	西川 賢一
企画調査課	指導主事	千歳 歆		

キーワード：授業のユニバーサルデザイン化 分かりやすい授業づくり 授業改善 教員研修

はじめに

障害者の権利に関する条約第2条（外務省, 2014）において、ユニバーサルデザインは「調整又は特別な設計を必要とすることなく、最大限可能な範囲で全ての人が使用することのできる製品、環境、計画及びサービスの設計をいう」と定義されている。教育分野では、障害のある子どもを含む多様な子どもたちを包摂し、すべての児童生徒がわかりやすく学びやすい教育のあり方を「教育のユニバーサルデザイン」として実践研究が進んでいる（菊池哲平, 2022）。

平成28年に兵庫県教育委員会が朝来市の3校をモデルとして作成した「授業のユニバーサルデザイン化ハンドブック」（兵庫県教育委員会, 2016）では、授業づくりや学級経営に特別支援教育の視点を取り入れ、発達障害等のある児童生徒が学びやすいように指導方法等を工夫改善することは、その結果として、すべての児童生徒にとってわかりやすい授業につながると述べられている。これらは、小・中学校におけるモデル研究であるが、高等学校においても、授業にユニバーサルデザインの視点を入れることは、特別な支援を必要とする生徒だけではなく、すべての生徒の授業への積極的な参加や理解の深まりにつながることが期待できる。

平成28年12月に「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」等が公布（施行は平成30年4月1日）され、高等学校における通級による指導が制度化された。本県では、平成31年に兵庫県特別支援教育第三次推進計画を策定し、その中で、すべての教職員が、すべての生徒が理解しやすいよう配慮したユニバーサルな授業づくりや、認め合い、支え合う学級づくりを行えるよう、学習指導要領に示された学びの困難さに対応する授業改善研修を実施することが示された。国立特別支援教育総合研究所（2020）は、通級による指導は、あくまでも個別に設定された時間で行う指導であり、障害のある生徒の学びの充実のためには、他の全ての授業においても指導の工夫・改善が重要となる。障害のある生徒にとって分かりやすい授業は、障害のない生徒にも分かりやすい授業であることを全ての教員が理解し、指導力の向上に努めることが必要である。こうした考え方を教職員全体で周知していくためには、「ユニバーサルデザインの考え方に基づく授業改善」に関する研修の実施をしていく必要があると述べている。

以上のことから、県内の高等学校においても、ユニバーサルデザインの考え方に基づく授業改善を促進していくことが必要である。そのため参考資料としてリーフレットを作成

することとした。そして、今年度については、県内高等学校のユニバーサルデザインの考え方に基づく授業の取組をまとめ、リーフレット作成のための基礎資料を得ることを目的として研究を行った。

1 リーフレット作成にあたっての基本的な方向性

リーフレット作成に向けて、課程や学科の異なる県立宝塚西高等学校、県立西脇北高等学校、県立但馬農業高等学校における「分かりやすい授業」のための具体的な取組を収集することとした。収集にあたっては、兵庫教育大学大学院 内海友加利助教に協力を依頼した。令和4年10月、当教育研修所指導主事が協力校3校を訪問して授業参観を行い、授業を分かりやすくするための工夫が見られた場面を詳細に記録していった。その後、平成28年に兵庫県教育委員会が作成した「授業のユニバーサルデザイン化ハンドブック」を参考に、記録した授業場面を授業のユニバーサルデザイン化の視点から次のように分類した。

①導入・展開の工夫（課題の明確化、教材提示、見通しの持たせ方、集中の持続）

例）・授業の流れを示し、見通しを持たせる。

- ・タイマーを用いて演習をすることで、時間を意識して解答する習慣が身に付く。
- ・書画カメラを活用し、手元を映して説明する。

②指示・発問の工夫（具体的な言葉、明確な指示、働きかけ、モデル提示）

例）・説明済みは見え消しにし、現在説明している内容を赤枠で囲む。

- ・学習内容に関わる実験動画を見せ、イメージを持たせた上で発問をする。
- ・身近な話題から興味・関心を持たせる工夫を行う。

③板書の工夫（見やすさ、流れ、文字の大きさ、色）

例）・解説の工夫として、生徒と同じプリントをスクリーンに映し、書き込んで解説する。

- ・注目しやすいように黒板に線を引いて左右を区別する。
- ・ポイントを板書し、いつでも確認できるようにする。

④机間指導の工夫（声かけ、動き方、観察）

例）・机間指導（個別対応）が可能となるように、スライドのページめくりを遠隔操作する。

- ・机間指導をしながら、一人一人にスタンプを押して称賛する。
- ・発表を盛り上げたり、集中させたりする声掛けを行う。

⑤学習展開の工夫（リズム、時間配分、個人の活動、ペアワーク、グループ討議）

例）・今何をするのか、活動時間のスライドで示す工夫を行う。

- ・生徒の進捗状況を把握しながら、これまでの授業を思い出させる発問をする。
- ・重要なポイントを指導するときは、集中を促す声掛けを行う。

⑥教室・学習環境の工夫（座席、前面掲示、刺激量の調整、整理整頓、物の置き方、場づくり、学習ルール）

例）・教室にある椅子の脚に、テニスボールを装着することで静かな環境になる。

- ・歌唱テストの場面において、移動式黒板等で仕切り緊張する生徒への配慮を行う。
- ・授業プリントを配布し、ファイリングさせることで学習習慣を身に付けさせる。

⑦視覚支援の工夫（提示物の工夫、具体物の活用、ICTの活用）

例）・教科書をテレビモニターに映し、今どこを学んでいるかを分かりやすく提示する。

- ・立体模型を用いて結合についてイメージしやすくなる。
- ・口頭説明の補足として写真を示す。

⑧個別の配慮（補助教具の工夫、具体物の活用、選べる課題、個に対する支援）

例）・生徒との会話を大事にしながら、個別的な対応を行う。

・過去の授業プリントをクラウド上にアップロードし、復習できるようにする。

・生徒が理解しやすいように、指示を一つ一つ分けて行う。

2 リーフレット作成協力校における校内研修のアンケート結果

令和4年12月～令和5年1月、協力校3校に指導主事が訪問して校内研修会を実施した。研修は1時間程度で、各校の授業参観時に撮影した写真を用いて、ユニバーサルデザインの視点から、どのような点がすべての生徒にとって分かりやすいのかを説明した。その内容を考えるにあたっては、内海助教から助言をいただいた。また、工夫した授業場面の意図をそれぞれ行った教員から説明を受けるかたちで校内研修を進めた。

以下に、研修会後に実施したアンケート結果を示す。

（1） 今までに実践したことはないが、すぐに実践したいと思った取組

図1は、「今までに実践したことはないが、すぐに実践したいと思った取組」について、協力校3校全教員の回答割合を示したものである。協力校3校において、「①導入・展開の工夫」、「⑦視覚支援の工夫」の取組を授業の中で取り入れていきたいと考えている教員の割合が高いことがわかった。「①導入・展開の工夫」の選択理由として、「授業展開を板書することで、生徒にとっては授業の見通しが立ち、教員はやり残しや時間配分の目安になる」、「時間を決めることで生徒の集中力が上がる」等の回答が得られた。

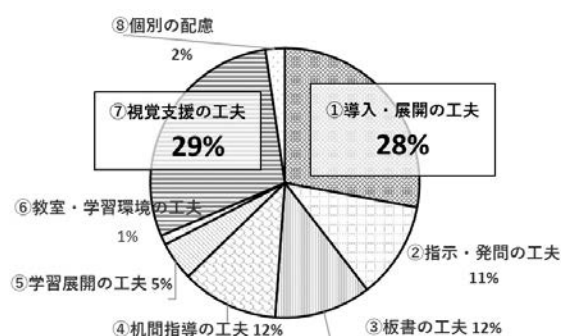


図1 今までに実践したことはないが、すぐに実践したいと思った取組

「⑦視覚支援の工夫」の選択理由として、「実物や動画を見せることで生徒の意欲を高めたい」、「視覚的な支援を行うことによって理解が深まり、授業への参加意欲が向上する生徒が多いと考えているから」等の回答が得られた。これらの回答から、生徒の授業への参加意欲の向上や、見通しを持って集中して授業に取り組ませることを重要視している教員が多いと考えられる。

「①導入・展開の工夫」、「⑦視覚支援の工夫」以外に、「今まで実践したことはないが、実践してみたいと思った取組」を選んだ理由として次の回答が得られた。

- ・「②指示・発問の工夫」：動画を見るだけになっているため、発問しながら意見を拾いたい。
- ・「③板書の工夫」：板書量が減ることで、解説に時間をかけられる。
- ・「⑤学習展開の工夫」：理解できた生徒が他者を教えることで、お互いの理解力がより深まる。等

これらの回答から、今回の校内研修において、指導主事により自校の授業についてのフィードバックを行ったことで、わかりやすい授業づくりのための視点について新たな気づきを得たことや、生徒の授業への参加意欲、学習の理解度を向上させるために、様々な

取組を実践したいという教員の意欲向上につながったと考えられる。

(2) 実践したいが、すぐには難しいと思った取組

図2は、「実践したいが、すぐには難しいと思った取組」について、協力校3校全教員の回答割合を示したものである。協力校3校において、「⑦視覚支援の工夫」に対して、授業での実践が難しいと感じている教員の割合が高いことが分かった。選択理由の自由記述では、「タブレット端末の機能を全員に理解させ、スムーズに授業を展開できるかについて不安がある」、「タブレット端末を生徒に利用させているが、効果的な利用にまでは至っていない」等の回答が得られた。これらの回答から、BYODの導入に伴い、1人1台端末の活用を意識

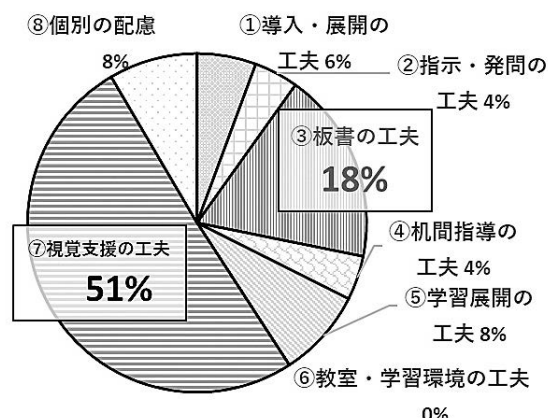


図2 実践したいが、すぐには難しいと思った取組

した授業を展開しているが、教員のICT活用には不安があり、すぐに実践することが難しいと感じていると考えられる。また、「⑦視覚支援の工夫」の実践が「すぐには難しい」と思った上述以外の理由として次の回答が得られた。

- ・タブレット端末を使用した生徒同士のやりとりを促進することに関しては、消極的な生徒がいる場合は難しい。
- ・毎回の授業で模型や実物を用意するまでの準備をすることは難しい。
- ・書画カメラを使用し、実習・実験の手元を映して説明する場合、他の職員の協力が必要である。
- ・実習中に手元を映す機器がなく、また、外での実習ではWi-Fi環境が整っていないために難しい。等

これらの回答から、教員のICT活用に関する知識・技術への不安を解消するだけでは、ICT活用による授業のユニバーサルデザイン化の推進が困難であることがわかる。今後、校内のWi-Fi環境の準備、必要な機器等の予算確保、活用の際に必要となる人員不足の解消など、学習環境の人的・物的資源の充実が必要であろう。

また、「⑦視覚支援の工夫」以外に、「すぐに実践することが難しいと思った取組」を選んだ理由として次の回答が得られた。

- ・「⑤学習展開の工夫」：グループの学習は授業時間や他の教員との進捗などを踏まえると難しいと思った。自分の言葉で説明することができない生徒が多く、話し合いをすることが難しい。
- ・「⑧個別の配慮」：個人にかかる時間が多いと授業が進まないのではないかと感じたから。
どうしても一斉授業となり、個別の理解に応じた授業が難しい。等

「⑤学習展開の工夫」に対してはペアワークに難しさを感じているという意見が多く寄せられていた。これは、ペアワークを取り入れることで授業の進捗に影響があることや、必

ずしもペアワークの取組に効果があると感じていないことが考えられる。「⑧個別の配慮」については、数十人の生徒を1人の教員で個別に対応することが難しいと感じていることが読み取れる。

(3) 本日の校内研修を通しての感想等

校内研修会を受講しての感想としては、次のような回答が得られた。

- ・自分の身近なところにもいくらでも手本や参考事例があると思った。
- ・授業の写真があることで、どのような取組があるかわかりやすかった。
- ・授業のユニバーサルデザイン化がなぜ必要なのかということについて、もう少し詳しく説明していただいてもよかったと思う。等

今回の校内研修会では、それぞれの協力校で撮影した授業場面の写真を提示しながら、その場面がどのように分かりやすさへとつながっているかについて説明を行った。

授業のユニバーサルデザイン化の必要性や重要性をどのように伝えるかという点については、課題があると考えた。校内研修会の限られた時間の中で、授業のユニバーサルデザイン化の必要性や重要性についての説明が十分ではなかったとの感想があり、丁寧な説明を行う必要がある。その反面、国や県の資料等を根拠に説明することに力点を置きすぎると、教員が日常の授業で感じている困難と乖離し、教員にとって机上の空論のように捉えられてしまう恐れがある。理論的な根拠を踏まえた上で、現場の教員の感覚に寄り添えるような研修プログラムの設計を考えていく必要がある。

3 今後の課題

今年度実施した学校訪問や校内研修会で得た基礎資料をもとに、来年度は当教育研修所で行う年次研修や選択研修、学校に赴いて行うサポート研修等において、今年度の資料をベースとした研修を実施していく。

実施した研修の内容や教員の反応を検証し、最終的には幅広く高等学校の教員の授業改善に役立てられるようなリーフレットを作成したい。

おわりに

協力校3校での授業参観を通して、すべての生徒にとって分かりやすい授業づくりに向け、日常的に様々な取組を教員が行っていることを確認することができた。その後、ユニバーサルデザインの視点から授業の価値付けを行うことで、日常的に行っている取組を、授業のユニバーサル化の視点で整理することができた。この成果を校内研修会でフィードバックし取組事例を共有することで、ユニバーサルデザインの視点からの授業改善について、身近な事例と近接した形で参加した教員に理解を深めてもらえたのではないかと考える。

今後、今年度の取組を検証し、授業進度の遅延、準備への負担感、ハード面での限界といった、高等学校教員が授業のユニバーサル化を進めていく上で障壁となるような事柄にも配慮しながら、学校現場の実態に応じた研修の在り方を模索していきたいと考える。

謝辞

最後に、ご協力いただいた協力校の皆様、御指導、ご助言を賜りました兵庫教育大学助

教授内海友加利様に心より感謝を申し上げます。

文献

独立行政法人国立特別支援総合研究所（2020）高等学校の教員のための「通級指導による」ガイドブックおさえておきたいQ & A, 4.

外務省（2014）障害者の権利に関する条約.

https://www.mofa.go.jp/mofaj/fp/hr_ha/page22_000899.html.

兵庫県教育委員会（2019）兵庫県特別支援教育三次推進計画.

兵庫県教育委員会（2016）特別支援教育の視点をいかした授業のユニバーサルデザイン化ハンドブック～すべての児童生徒が達成感や充実感を味わえる授業づくりをめざして～.

菊池哲平（2022）気になる！教育関連用語解説ユニバーサルデザイン．教職研修, 12, 75.